

特集

秋の長雨シーズン到来!!

水害時の命綱は、情報収集

近年、日本各地で水害が発生しています。安曇野市でも昨年8月14日の記録的大雨で明科地域の一部で土砂災害の危険が高まり、市が発令する警戒レベルで最も高い「緊急安全確保」を発令。内水氾濫や林道の崩落などの被害が発生しました。

今月号では、台風や長雨が多くなるシーズンを前に、市内で起きた水害の歴史を振り返りながら家庭での備えや避難計画の作成方法を紹介いたします。

市内自然災害の8割が水害

犀川をはじめ大小さまざまな河川や水路が流れる安曇野市には多くの水害の歴史があります。明治以降の市内の自然災害の8割は水害であり、昭和32年から41年までの10年間で25回の河川氾濫が発生しています。近年は、限られた範囲に短時間で大量の雨が降る短時間的強雨(ゲリラ豪雨)が多く発生し、大きな災害をもたらしていることから、水害は私たちの身近な場所でも起り得る災害といえます。

過去の経験を今に活かすために

過去の災害を振り返り、自分が住んでいる付近ではどんな被害があったのかを知り、イメージすることで、いざという時の避難計画の手助けになります。過去の記録を風化させることなく、今できる準備を行い、災害に備えることが大切です。

2006年 平成18年7月19日

【7月豪雨】
梅雨前線の長雨により、市内全域で道路の冠水や林道の土砂崩落などの被害が発生。明科地域(小泉・荻原・木戸地区28世帯・88人に避難勧告。大雨により中房線、国道403号が通行止めになりました。



冠水した明科御宝田遊水池

【8月豪雨】

前線の影響で記録的大雨となり明科地域の一部に「緊急安全確保」が発令され、内水氾濫や林道の崩落などの被害が発生しました。



内水氾濫を排水する市消防団



崩落した林道城山線

【台風23号】

明科地域では、総雨量161ミリを記録。床下浸水、国道403号で土砂崩落が発生しました。穂高地域では、小岩嶽地区50世帯に避難勧告が出されました。



豪雨により浸食した道路

2004年 平成16年10月20日

1999年 平成11年6月29日

【6月豪雨】

豪雨の影響で万水川をまたぎ矢原堰の水路を支えてきた「めがね橋」が崩壊。また、烏川富田橋下流の堤防が崩落するなど大きな被害が発生しました。



崩壊前のめがね橋



【6月豪雨】

梅雨前線の豪雨の影響により、高瀬川、烏川(穂高自動車教習所付近)が増水、堤防が決壊しました。

高瀬川右岸決壊の様子

1970年 昭和45年6月15日

2020年 令和2年

2000年 平成12年

1980年 昭和55年

1960年 昭和35年

2021年 令和3年8月14日

1983年 昭和58年9月28日

【台風10号】

豊科田沢で国道19号の路肩が崩壊。明科地域では警戒水位を突破し、床上浸水13世帯、床下浸水72世帯、穂高地域でも床下浸水33世帯の被害が発生しました。



大雨で警戒水位を越えた水路

1959年 昭和34年8月13日

【台風7号】

戦後最大の洪水となり、県内の被害は死者71人、家屋の全壊1,391世帯、床下浸水10,959世帯に達しました。



明科地域の会田川増水の様子

1959年 昭和34年9月26日

【伊勢湾台風】

旧穂高町では烏川橋が流されるなど大きな被害が発生。災害救助法が適用されました。



烏川橋が流出

Interview



市区長会長 / 防災士 土肥 三夫さん

「どこへ逃げるのか」・「どこから情報を得るのか」を事前を知る

まずは、防災マップを確認

河川氾濫等の危険が高まり、避難指示が発令された場合に重要なのが、最も安全と思われる場所に避難するという事です。避難場所に向かうまでに河川に近い場所を通るのか、橋を渡るのか、避難場所は自分のいる所より高い場所なのかといったことを踏まえ判断することが大切です。

そのためにも、自分が住んでいる場所にどんな危険があるのか防災マップで確認し、いざという時に危険な場所を避ける経路を想定しておくことが大切です。

必要な情報をどこから得るか

避難時や災害時には、たくさんの情報が発信されます。ありとあらゆる情報の中から、いち早く「自分に必要な情報をどこから得るか」が求められます。

大半の人がスマートフォンを所有する現在、インターネットから

情報を得る人が多いと思います。大雨や洪水など、事前に予想できる災害に対しては、インターネットなどで事前に情報を得て、今後の動向を注視することができます。

一方、子どもや高齢者といった災害弱者や地震のように突然起こる災害に対しては、行政が発信する情報を受信できる防災行政無線や防災ラジオの存在が欠かせません。

日頃から災害時に必要不可欠な情報を取りに行く手段を確立することにも、情報を受け取ることでできる防災ラジオなどの準備をしておくとう安心です。

シミュレーションは大勢で

避難経路の確認や防災グッズの準備のほかに、避難訓練などで大勢の人と災害発生時のシミュレーションをすることも重要です。

避難訓練では、自分が知らない危険箇所や安全な場所などの有益な情報が共有できます。また、災害対策用品を自分で使うと、防災グッズの代替品として使えるものなどのアイデアも共有できます。

コロナ禍の現在、大勢の人が集まって訓練を行うことは難しい状況ですが、家族でもう一度、危険箇所や情報の入手などを話し合い、共有してみたいかがでしょうか。